

「ニホンジカ」が植物の生態系に与える影響

「ニホンジカ」が植物の生態系に与える影響について

希少植物増減シカ左右

京都府内でシカによる希少植物への食害が深刻化している。府が「京都府レッドデータブック」の改訂作業で府内の種子植物とシダ植物を調べたところ、絶滅の恐れがある種子植物は8年前の前回調査比で4.3%、シダ植物は3.3%それぞれ増加した。シカが食さない希少種は逆に生息数が増えており、シカの好みによって絶滅の危険度が左右される傾向が鮮明になった。

府調査 食害深刻化

シカの食害で激減し、絶滅危惧種に指定されたオオバショリマ—府提供、光田重幸さん撮影



シカの食害が著しく、絶滅寸前種に引き上げられたヤマホオズキ—府提供、山本義則さん撮影

好みオオバショリマ激減 嫌いなクリンソウは生息拡大

府は2002年にブックの初版を発行、15年に全面改訂した。同年版は府内で生息する全動植物1万3074種のうち1935種を掲載している。前回改訂から10年前に、府が分類ごとに調査を進めており、調査を終えた種子植物・シダ植物についてリストを公開した。

結果について府自然環境保全課は「シカの食害が生態系の劣化につながっていることが如実に表れた。生物多様性をどう保全するかが課題だ」と分析する。府内のニホンジカの推定生息数は9万6千頭(20年度)で横ばいが続き、シカが好んで食べる希少種がことごとく生息数を減らしたという。

ブックは、府内で絶滅したと考えられる「絶滅種」、絶滅の危機にひんしている「絶滅寸前種」、絶滅の危機が増している「絶滅危惧種」(存続基盤がもうい「準絶滅危惧種」、今後の動向を注目すべき「要注目種」)の5段階でランク付けしている。

種子植物の掲載数は40種増の計788種。増加が目立ったのは絶滅寸前種で30種増の252種となった。丹後、中丹地域に生育する

ヤマホオズキは食害で減少し、絶滅危惧種から引き上げた。絶滅種は1種増の46種に、絶滅危惧種は12種増の236種、準絶滅危惧種は6種減の176種、要注目種は3種増の78種だった。

シダ植物は4種増の126種。シダ植物も食害は深刻で、特にオオバショリマは激減し、要注目種から絶滅危惧種へと一気にランクを一つ引き上げた。絶滅種が1種増の6種、絶滅寸前種が6種増の42種、絶滅危惧種は1種減の32種、準絶滅危惧種は4種増の20種、要注目種は6種減の26種だった。

一方、シカが食さないクリンソウは生息数が増え、生えている地域も拡大しているといい、府は今回、準絶滅危惧種から要注目種にランクを引き上げた。改訂作業でチームの中心的な役割を担った同志社大元准教授の光田重幸さんは「これまでシカが食べなかった希少種まで被害に遭っており、今のうちに手を打たなければ多くの希少種が絶滅してしまふ。希少種を守るため、シカが入れないよう柵を設けるなど多くの人の協力が要だ」と指摘する。(田代真也)

※2023年3月5日 京都新聞(朝刊)より。

「ニホンジカ」の主な嗜好植物・不嗜好植物

※ 2018~2019年に、植生学会が実施した全国調査「ニホンジカによる日本の植生への影響〜シカと植生に関するアンケート調査(2018~2019)報告〜」をもとにしたものです。ニホンジカの嗜好植物・不嗜好植物について、全国の地域を対象としたアンケート調査した結果を集計したものをベースとしていますので、地域の実情によって異なる場合があります。また、忌避・不嗜好とされている植物であっても、「刺などがある植物では、軟らかい新芽部分」、「トリカブトなどの有毒植物では、毒の少ない葉の部分」が食べられる場合もあります。また、「シカ個体数の多い地域では不嗜好植物」も食べられることがあります。

＜主な嗜好植物＞

| | | | |
|-----------|-----------|----------|-------------|
| リウブ | ムラサキシキブ | エゾイラクサ | ニガイチゴ |
| イブキザサ | イトスゲ | エゾミソハギ | ノブドウ |
| スズタケ | コカンスゲ | オオイタドリ | ヒメシラスゲ |
| ススキ | シウリザクラ | オシダ | フサザクラ |
| コアカソ | ショウジョウスゲ | コゴメウツギ | ミツガシワ |
| イヌツゲ | ツルギミツバツツジ | コチヂミザサ | ミヤマセントウソウ |
| ヤマツツジ | ヤマヌカボ | コメツツジ | モミ |
| アオキ | オガラバナ | コヨウラクツツジ | ヤブムラサキ |
| イタドリ | ガマズミ | ササ類 | ヤマカモジグサ |
| ノリウツギ | クロヅル | サラシナショウマ | ヤマヤナギ |
| シロモジ | ノイバラ | サルトリイバラ | ヤクシソウ |
| ミヤマクマザサ | ハイイヌガヤ | ゼンテイカ | リョウメンシダ |
| カンスゲ | メアオスゲ | タンナサワフタギ | ミヤコイヌワラビなどの |
| ウツギ | モミジイチゴ | チシマザサ | メシダ科植物一般 |
| ナガバモミジイチゴ | アカソ | ツツジ | ヤマソテツ |
| ネザサ | イノコズチ | ツルアジサイ | ナツノハナワラビ類 |
| ヒサカキ | イボタノキ | テクリスゲ | ヌリワラビ |

＜主な不嗜好植物＞

| | | | |
|-----------|------------|-----------|-------------|
| アセビ | フッキソウ | アオテンナンショウ | ミツバテンナンショウ |
| イワヒメワラビ | アケボノソウ | アリドオシ | ヤマトリカブト |
| マツカゼソウ | 展葉したアザミ類 | イグサ | ヨウシュヤマゴボウ |
| シシガシラ | イノデ類 | イケマとコイケマ | ワラビ |
| 展葉したタケニグサ | イラクサ類 | ウマスギゴケ | イワヒメワラビ |
| フタリシズカ | ウラジロ | キジノオシダ類一般 | キオン |
| クマワラビ | オオバノイノモトソウ | カラマツソウ | トリカブト属一般 |
| ミヤマシキミ | コアジサイ | カワチブシ | エゴノキ |
| シキミ | ゴマナ | サンショウ | オオバアサガラ |
| テンニンソウ | シロヨメナ | シコクママコナ | ベニバナヤマシャクヤク |
| トゲアザミ | ゼンマイ | シラネワラビ | ヤマシャクヤク |
| ナチシダ | ソヨゴ | ツルシキミ | オニヒカゲワラビ |
| バイケイソウ | タカネオトギリ | ムサシアブミ | キイチゴ類 |
| レモンエゴマ | ベニバナボロギク | ナギ | テツカエデ |
| イヌガン | ホソバカナワラビ | ニリンソウ | オオハンゲ |
| コバノイシカグマ | マムシグサ類 | ハンゴンソウ | ダンドボロギク |
| ハリガネワラビ | マルバダケブキ | ヒメジャラ | |

植生学会「ニホンジカによる日本の植生への影響〜シカと植生に関するアンケート調査(2018~2019)報告〜」等をもとに作成。